



秋田県青少年交流センター広報

平成25年3月22日発行

第11号

せいらゆう

〒011-0905 秋田市寺内神屋敷3-1
Tel 018-880-2303 Fax 018-847-6350
e-mail youthpal@tkcnet.ne.jp
url http://homepage2.nifty.com/youthpal/

AKITA PREFECTURAL YOUTH CENTER

「青少年のための事業を主催して」



秋田県青少年交流センター

所長 三浦善治

(指定管理者:財団法人秋田県青年会館理事長)

今冬は、3月上旬まで厳しい寒気が居座り、例年以上の降雪に見舞われましたが、この雪も一雨ごとに解け、春の息吹が感じられる季節となりました。当センターの道路沿いに植えられている桜並木の開花が待ち遠しく思われます。

日ごろ、当センターの運営について、ご理解ご協力をいただきありがとうございます。

青少年教育振興のために青少年を対象とした様々な研修を行うとともに、青少年団体の活動拠点として交流の機会を提供し、県民の様々な生涯学習の場として広く活用されることを目的としていることを念頭に、県教育庁生涯学習課のご指導のもと、今年度の主催事業を運営してきました。重点目標として、「青少年の自立につながる社会参加活動の推進」「児童生徒の学校教育外活動の支援」「県内高校生の国際交流支援」「青少年や地域の人々に対する活動成果発表の機会の提供」等を掲げましたが、多くの幼・保育園児、中学生、高校生、大学生、専修学校生、青年及び県民にご活用いただきましたこと、心より感謝申し上げます。特に、国際交流事業が2年目を迎えた今年度、交流の輪が広がりました。韓国平澤市青少年文化センターとの相互交流の他に、韓国寧越郡青少年日本(秋田)文化体験プロジェクトを受け入れ、寧越郡の高校生と県内高校生との交流が実現しました。また、ユースパルまつりでは、青少年団体・特別支援学校・県教育機関・国文祭の展示、小学生・高校生・一般の方々の発表、朝市(農業高校の農産物販売、海洋少年団の海産物販売)、アウトドアチャレンジ等に多くの県民の皆様にお出でいただきました。今後も研修事業内容の充実に努めてまいりたいと考えております。

さて、以下に、今年度の主催事業のご報告、セカンドスクールの利用状況及び利用メニュー、また、平成25年度の主催事業一覧を紹介いたしますので、ご高覧ください。

今年度の主催事業から

高校生徒会交流会議



5月18日(金)～19(土)、青少年交流センターにおいて1泊2日の日程で実施しました。県内25高校から57人の生徒会役員が参加しました。実行委員の進行によるアイスブレイクや、チームワークトレーニングとしてのグループワーク「パスは待ってくれない」が行われました。また、フリーターキング①では、「地域の活性化に向けた高校生の取り組みについて」、「高齢化社会での高校生の関わり方について」、「他の高校と協力し合って実施できる活動について」、フリーターキング②では「東日本大震災から学んだことをどう生かしていくかについて」、「身近にできる国際交流について」をテーマに活発な話し合いが行われました。参加者からは、「三年生になって初めての参加で、このような活動に参加するのをためらっていたことが残念に思えた。真剣な議論の中にもたわいのない話も出て刺激を受けながらとても楽しく活動できた」「他校生とたくさん交流できて楽しかったです。また、楽しいだけでなく、みんなで課題解決に向けて協力して取り組むことができ、良い経験になりました」、「実行委員がしっかりしていたから、交流会議が盛り上がったと思う」、「初めて参加して、最初はとても緊張し、まったく話すことができなかったけど、フレンドリーな人が沢山いて、徐々に馴染んでいくことができました。グループワークなどで他校生の意見を聞くと、今まで考えたこのもないような意見もあったし、自分とは全く違う視点で考えていたり、話の内容が濃く、まとめながら進めていける人もいて、実力の差を知りました。同じ生徒会役員として、みんなの良いところを真似して、今回学んだことを自校でもどんどん取り入れていきたいと思いました」等の意見が出されました。



ユースボランティア交流会



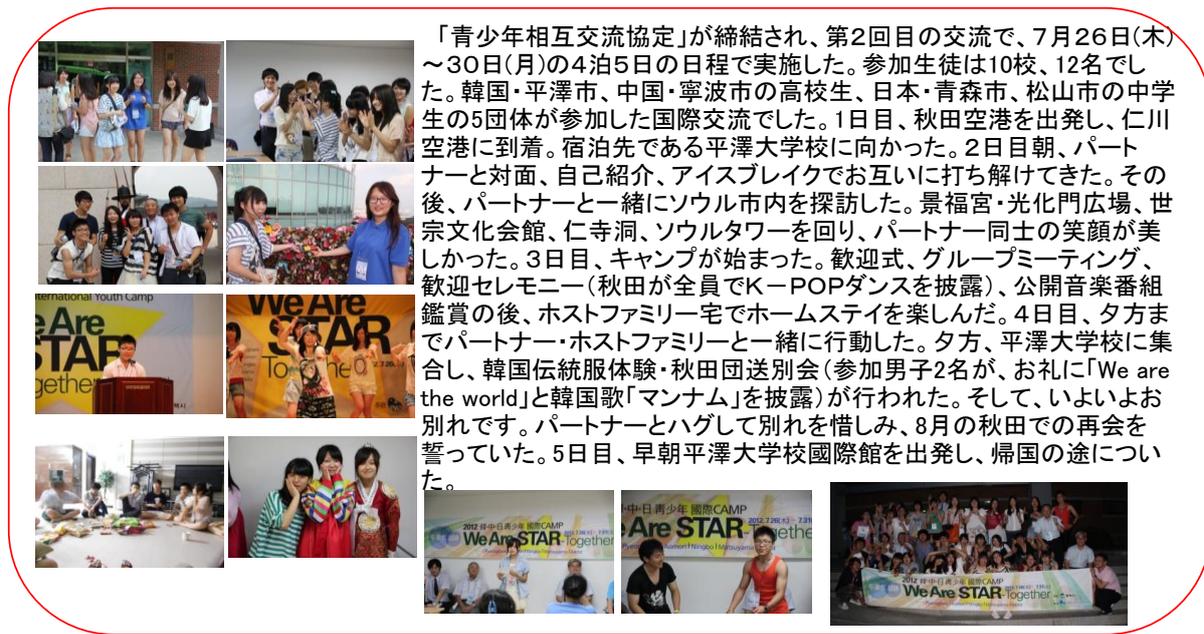
7月7日(土)～8日(日)に1泊2日の日程で、岩城少年自然の家を会場に、開催した。参加者は、高校生3名、大学生16名であり、これに講師1名、スタッフ7名(秋田県青少年交流センター3、岩城少年自然の家4)が加わった。

1日目は、開会式の後、ペットメイキング講習、野外炊飯で使用する窯の設置・炊飯準備をした。その後、冒険の森の中で、アイスブレイク及びプロジェクトアバドベンチャー(ジャイアントシーソー、ニトロクロッシング、アイランズ、モフォーウォーク、トラストフォール)が行われ、仲間との「信頼」や「協力」を体感し、コミュニケーションが深まっていった。この後、グループごとにナイトハイク用提灯・七夕用短冊作り、野外炊飯を行った。ご飯は、日本赤十字社秋田県支部の竹澤雄基氏のご指導のもと、災害用移動炊飯器を使用して炊き上げ、別で作ったカレーライスを味わった。辺りが暗くなり、ナイトハイクが行われ、各グループごとに提灯を持ち、「たぬきコース」を巡った。真っ暗の状況の中、不安に駆られたグループもあったが、無事踏破した。

2日目、演習の前に聖園学園短期大学の学生が参加者に声をかけ、全員で「アブラハムの子」を歌い、踊った。このおかげで眠気が覚めたようである。この後、竹澤氏を講師に、演習が行われた。東日本大震災による被災地でのボランティア活動体験及び緊急時の応急手当、救急救命法についてであった。参加者からは、初対面の人との野外炊飯やPAは、コミュニケーションをとりながらやらなければならない大変だったがい経験になった等の意見があった。

青少年国際交流

(第1期:韓国・平澤市青少年文化センター「韓中日国際交流キャンプ」参加)



「青少年相互交流協定」が締結され、第2回目の交流で、7月26日(木)～30日(月)の4泊5日の日程で実施した。参加生徒は10校、12名でした。韓国・平澤市、中国・寧波市の高校生、日本・青森市、松山市の中学生の5団体が参加した国際交流でした。1日目、秋田空港を出発し、仁川空港に到着。宿泊先である平澤大学校に向かった。2日目朝、パートナーと対面、自己紹介、アイスブレイクでお互いに打ち解けてきた。その後、パートナーと一緒にソウル市内を探訪した。景福宮・光化門広場、世宗文化会館、仁寺洞、ソウルタワーを回り、パートナー同士の笑顔が美しかった。3日目、キャンプが始まった。歓迎式、グループミーティング、歓迎セレモニー(秋田が全員でK-POPダンスを披露)、公開音楽番組鑑賞の後、ホストファミリー宅でホームステイを楽しんだ。4日目、夕方までパートナー・ホストファミリーと一緒に行動した。夕方、平澤大学校に集合し、韓国伝統服体験・秋田団送別会(参加男子2名が、お礼に「We are the world」と韓国歌「マンナム」を披露)が行われた。そして、いよいよお別れです。パートナーとハグして別れを惜しみ、8月の秋田での再会を誓っていた。5日目、早朝平澤大学校国際館を出発し、帰国の途についた。

青少年国際交流

(第2期: 韓国 平澤市の高校生の受け入れ)



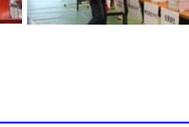
韓国訪問から9日後、パートナー11名が秋田を訪問し、8月9日(木)～13日(月)の5日間、交流を深めた。1日目、国際教養大学訪問、秋田県教育委員会表敬訪問の後、平澤市の高校生11名は、秋田和洋女子高校郷土文化部指導による「秋田民謡」を体験し、踊りと楽器演奏を楽しんでいた。2日目、秋田工業高校にて、「ものづくり体験教室」に参加した。秋田工業高校各科の生徒の指導の下、ソーラーエコラジオ・木片を使ったオリジナル模型・七宝焼きキーホルダーづくりに取り組んだ。昼、秋田のパートナーと再会し、男鹿半島ジオパーク、男鹿真山伝承館、雄物川花火大会を見学したが、秋田の自然及び大規模な花火に感激していた。この日は、平澤市と秋田の高校生が秋田県青少年交流センターに宿泊した。3日目、午前中秋田県立美術館(現・新)を見学した後、秋田のパートナー宅にホームステイに出发した。4日目、昼に秋田県青少年交流センターに戻り、通訳ボランティアと一緒に「なかいち」から「秋田駅周辺」を探索した。この日の夜は、高校生ヤートセグループ「闘心乱華」と「お盆行事体験(灯籠づくり・線香花火)」・「ヤートセ体験」をした。闘心乱華メンバーと一緒に、「うらじゃ音頭」を踊り、楽しい一時を過ごした。秋田空港で、平澤市の高校生に活動修了証が渡され、帰国の途についた。



ユースパルまつり



10月7日(日)～8日(月)、青少年や青少年団体に実践活動や発表の機会を提供し、お互いに交流を深めるとともに、地域の方々にユースパルの施設を開放するという目的で、「ユースパルまつり～今、青少年交流センターが熱い!～」が開催された。参加者は、スタッフを含めて1,300人であった。県内青少年団体・教育施設・特別支援学校・国民文化祭あきた等の活動パネル展示、体験活動(アウトドアチャレンジ)、アトラクション(和洋高校の秋田民謡、秋田弁の昔っこ、ヤートセ、タップダンス、フラダンス、いずみ会竿燈、フルーツ&ギター、薩摩琵琶、大正琴、マッキーの大道芸、大抽選会)、ユースパル朝市(金農・大農、海洋少年団、大和農園)、フリーマーケット、屋台村、大浴場一般開放、無料休憩場等が館内外で賑やかに行われた。今後も、一層地域とともに歩むユースパルを目指している。



なまはげきゃんぷ メインきゃんぷ編



10月12日(金)～14日(日)に2泊3日の日程で、秋田県青少年交流センターを拠点に開催された。1日目、13時からの開講式後、自己紹介、グループワーク、スポーツ交流(ニュースポーツ～キンボール～)、レストランの調理見学が行われた。夕食後、コミュニケーショントレーニング①【ネームトス、「話す時、聞く時のエチケット」、ワールドカフェ(「うれしいなあと考えたこと」、「話をしたいこと)】が行われ、お互いに打ち解けてきた。2日目、6時30分のラジオ体操から始まった。9時に大潟村に向けて出発、午前中はカントリーエレベーター公社、草花栽培農家(伊藤農場)、生態系公園を見学し、県立農業科学館主催「フォトコンクール」に応募する写真撮影を行った。午後は、「大潟村公民館」から「道の駅おおがた」まで、少々雨にうたれはしたが、グループごとに約1時間半のウォーキングを楽しんだ。夕食後、グループごとにフォトコン応募作品選び、題名及びコメントを話し合った。その後、コミュニケーショントレーニング②【しゃべり場～「参加のきっかけ」、「1日を過ごして」、「されていやなこと」、「孤独な時どうするか」、「困るなと思ったこと」】へ進んだ。3日目、ラジオ体操、チェックアウトの後、10時から集合写真撮影、フォトコン応募作品の披露、きゃんぷの振り返り(感想発表～「きゃんぷで、一番に残ったこと」、「嬉しかったこと」～)を行い、閉講式で全日程が終了した。そして、ウィンター編での再会を誓った。



対人関係能力向上セミナー「ユースパル夜学塾」



9月19日(水)～22日(土)、青少年交流センターで実施した。3日目までは夜7時30分から8時30分まで講座を行い、その後は、自由交流の時間とした。最終日は、午前10時から12時までの日程であった。参加者は、スタッフを含めて15名でした。1日目、NPO法人あきたNPOコアセンターの吉田理紗氏を講師に「青年夜会議」を実施した。参加者のキャッチコピーとニックネームを決め、ワークショップを行った。ざっくばらんにトークが進められた。2日目、(株)プレスステージ ヒューマンソリューションの清水留美氏を講師に「ビジネスマナー講座」を実施した。3日目、大潟村に在住の「こまめ小町コーポレーション」代表の藤村ゆき氏を講師に、安全・安心な農産物の商品開発についての講演を実施した。顔が見える営業、人と人とのつながりの大切さを語っていただいた。4日目、「画家という職業からみた秋田について」と題して、アトリエウマ代表の相馬大作氏の講演を実施した。日本の中の秋田についてお話しいただいた。参加者からは、堅苦しい感じを想像していたが、とても楽しく過ごせた、「普段聞くことがない講義を受講でき、充実した4日間でした」との感想があった。

ユース社会参加活動セミナー



12月22日(土)～23日(日)、秋田県青少年交流センターで「社会人としての心構えやボランティアなどの社会貢献」について考えるセミナーを開催した。参加者は、総勢8名であった。開講式後のアイスブレイク(共同作業ゲーム、ブロックモデル)では、参加者同士またスタッフともすぐ打ち解けることができた。次に、CHR研修「パスは待ってくれない」を実施した。各自が持っている情報をいかに相手にうまく伝え、課題解決につなげるかを目的とした研修であった。次は、ワークショップで、「あなたの社会参加活動」、「社会参加活動はどうあるべきか」のテーマで話し合った。2日目、秋田ふるさと塾主宰の佐々木三知夫氏を講師に講演を実施した。テーマは「私たちができる地域でのボランティア活動」であった。初めに、参加者は、仕事、趣味、家族及びモットーの、それぞれの観点についてどのような比率で生活しているかを述べる自己紹介をした。「ボランティア活動は、資金面や労力での犠牲とせず、活動を通して多くの人と出会いやつながりが財産になる」ということを学んだ。まとめと発表、閉校式後、和やかな雰囲気です記念集合写真撮影をし、終了した。

なまはげきゃんぷウインター編



1月26日(土)の10:00～21:10の日程で、今年度2回目のなまはげきゃんぷが開催された。拠点は秋田県青少年交流センターで、ウインター編である。次の日(1/27)は、「ゆうスペースAKITA 新春のつどい」であったが、ほとんどの人が引き続き参加した。1/26、11:00から、太平山自然学習センター“まんたらめ”で開講式の後、自然体験学習「スノーハイキング～かんじき体験～」を行った。吹雪に見舞われたが、予定のコースを完走した。秋田県青少年交流センターに戻り、15:30から「かめタイム」を“まいペース”サポートの大塚知監さんの進行のもと、「ジェスチャーゲーム」、「グルーブトーク」を行った。参加者は、初めて出会った人に対しても、一生懸命話しかけていた。17:00からは、スポーツ交流「よさこい体験」であった。秋田まるまる愛好会の指導により、楽しい時間を過ごした。夕食後、19:00から「しゃべり場ワールドカフェ」が行われた。参加者の深川純一さんの進行で、「今日の振り返り」、「しゃべりたいこと」について、グループ単位で話し合い、最後には各グループの代表が発表した。閉会式後、自由交歓の時間とし、しゃべり場が続いているようであった。参加者は、スタッフを含めて22名であった。次の日の「ゆうスペースAKITA 新春のつどい」は、参加人数が増えて総勢31名となった。10:00から、昼食(手巻き寿司)づくり、書き初めを行った。書き初めは、思い思いの言葉をていねいに清書していた。そして、いよいよ昼食の時間、おしゃべりをしながら、美味しくいただいた。

<なまきゃんウインター編>



<ゆうスペースAKITA 新春のつどい>

高校生リーダー養成「ニューリーダーセミナー」



2月15日(金)～16日(土)に1泊2日の日程で開催された。参加生徒は、県内15校から34名(男子16名、女子18名)であった。1日目は、開講式の後、アイスブレイク(シャッフル、ネームトス、共同作業ゲーム)が行われた。初めて出会った他校生徒と打ち解けて行動していた。この後、秋田県農業試験場の松橋秀男氏が「アフリカの米作りを支援する意味」と題して、講演が行われた。青年海外協力隊やJICAフィリピン・アフリカ派遣の経験談を通して、「なぜ国際協力が必要なのか」を問いかけた。最後に、「生まれ育った地元を大切に、良さを発信してほしい」と高校生に期待を込めたメッセージをいただいた。次に、CHR研修用の演習「10kgの液体」を実施した。7つのグループに分かれて、与えられた課題の解決のため、お互いにコミュニケーション能力の向上に努めた。夕食後、分科会①が行われた。「行事の活性化」、「地域への貢献」、「国際交流」の3テーマで話し合われた。各グループごとに相談して進行役を決め、各校の取り組みをもとに話し合った内容を全員の前で発表した。この後、自由交流の時間とし、多目的ホールではバスケットボール、バドミントン等のスポーツ交流、大広間では語らいの場となった。2日目、分科会②が行われた。各グループごとに、昨日とは違うテーマで話し合った。閉講式では、由利高校の鈴木さんと秋田北鷹高校の新屋くんに感想発表してもらった。参加アンケートには、「今までの自分の長所・短所が見えてきたので、これを今後に活かしたい」、「他校の貴重な意見を、自校の今後の学校づくりに活かしたい」、「リーダーとして全校を引っ張っていきたく強く思うようになった」等の決意が述べられていた。

青少年の居場所づくり「ゆうスペースAKITA」



- ・ 5月 5日(土)「お花見会」(参加者:14名、スタッフ:6名)
- ・ 1月27日(日)「新春のつどい」当日(参加者17名、スタッフ:13名)

※ 毎週水曜日:コーチが「ゆうスペース」にいます。

他の曜日にも、コーチがいる時があります。

韓国寧越郡高校生日本文化体験プロジェクト（海外青少年の交流訪問 要入）



2月18日(月)～21日、韓国寧越郡の高校生14名が日本文化体験・高校生交流のため秋田を訪問した。多くの方々のご協力のもと、実施された。1日目、秋田市内の裏千家淡交会 一戸宗津さんの茶室にて、「茶道体験」を行った。歓迎夕食会の後、遊工房楽画喜や代表の富樫茂さんを講師に「こけし絵付け」を体験した。日本文化を楽しんだ一日であった。2日目午前中、秋田県立博物館を訪問し、たたみ染め体験の後、館内展示室を見学した。午後、秋田北高校を訪問し、歓迎セレモニーの後、書道、音楽、英語、体育の授業に参加した。その後、調理室で一緒にお菓子(マドレーヌ)を作り、完成後お菓子を食べながらティータイムとなった。次に、交流会となり、秋田北高校の学校紹介、韓国寧越郡の高校生による「韓国寧越郡の紹介」「韓国の高校生活」についての発表があった。そして、韓国の伝統踊りが披露された。次に、県立図書館を訪問し、貴重本等を見せていただいた。夕食後、秋田和洋女子高校郷土文化部との交流で、「秋田民謡体験」を行った。3日目、秋田大学を訪問し、大学説明の後、鉱業博物館を見学した。大学で昼食後、太平山オーパスで「そり遊び」、自然学習センター“まんたらめ”で「かんじき遊び」を体験した。雪遊びを終わって、秋田温泉プラザに移動し、温泉を楽しんだ。夕食後、高校生ヤートセ“闘心乱華”の皆さんとヤートセ交流をした。最終日の4日目、退所のついでに感想発表、修了証を手にした後、イオンモール秋田を探訪した。秋田空港での搭乗前、留学したいと話す男子もあり、大変満足してくれたようである。そして、帰途についた。

セカンドスクールの利用状況

2月末日現在のセカンドスクールの利用について報告します。

利用校(園)種	利用校数				利用人数(実数)			
	県北	中央	県南	全県	県北	中央	県南	全県
幼・保育園	0	4	0	4	0	130	0	130
小学校	1	2	1	4	102	135	122	359
中学校	13	9	8	30	1398	1158	844	3400
高等学校	0	1	0	1	0	134	0	134
特別支援学校	0	0	1	1	0	0	48	48
専修学校	1	2	1	4	41	130	38	209
計	15	18	11	44	1541	1687	1052	4280

○セカンドスクールの利用とは

児童生徒が学校を離れた場所で、様々な自然体験、社会体験、共同生活体験等を行い、その活動を教科学習として授業時数にカウントできるシステムです。児童生徒の自ら学ぶ意欲や社会の変化に主体的に対応する能力(生きる力)を育むことをねらいとしています。

○青少年交流センターでは

- ①秋田市中心部に位置し、教育・研究・体育・文化施設等に近い立地条件を生かし、様々な体験活動・施設見学を行う際の拠点として最適です。
- ②学校や学年単位の利用で、教育課程に位置づけられた授業(各教科、特別活動、総合的な学習等)として実施する場合、研修室利用料金が無料となります。
- ③受け入れ研修(仲間作り活動)として、PA系ゲーム[アイスブレイキングを中心としたレクゲーム]、ニュースポーツ[キンボール、室内ペタンク]、CHR研修[コミュニケーション能力向上を図る自己啓発研修]の研修メニューがあります。実施については、[当センター研修班が直接指導します](#)。

※PA系ゲーム……100人くらいまで 30分程度
 ※ニュースポーツ……50人くらいまで 90分程度
 ※CHR研修 ……160人くらいまで 120分程度



- ④宿泊と食事には、青少年料金が適用されるほか、マイクロバス(28人乗り)の利用(要申込)も可能です。

平成25年度 青少年交流センター主催事業一覧（予定）

学校外教育 活動支援事業	高校生徒会交流会議	県内高校の生徒会役員が一堂に会し、充実した生徒会活動を推進するための情報交換を行い、生徒会のネットワークを形成します。実行委員を募集し、生徒主体の運営を目指します。	5月24日(金)～25日(土) 会場：青少年交流センター
	高校生リーダー養成 「ニューリーダーセミナー」	様々な分野の高校生リーダーが集い、充実した活動を推進するための研修と情報交換を行い、必要な資質の向上を目指します。	2月21日(金)～22日(土) 会場：青少年交流センター
	青少年国際交流 (秋田と韓国の高校生の相互交流 (秋田と中国の高校生との交流))	海外青少年との相互交流を通じて、交流先の文化や歴史を学ぶとともに国際感覚を身に付け、グローバルゼーションに対応する青少年の育成を図ります。	7月25日(木)～29日(月) (秋田が韓国を訪問) 8月8日(木)～12日(月) (韓国が秋田を訪問)
青少年の自立・ 社会参加 活動支援事業	青少年団体間交流会	ユースパルに入居する団体を中心に、各青少年団体に呼びかけ、各団体間の活動等の情報交換を図るとともに、連携と協力を深めます。	12月6日(金) 会場：青少年交流センター
	ユースボランティア交流会	青少年ボランティアグループの活動活性化のために、相互の交流を図るとともに、充実した活動を行うための資質の向上を図ります。	7月6日(土)～7日(日) 会場：岩城少年自然の家
	ユースフェスティバル (ユースパルまつり)	ユースパルを拠点又は利用する青少年団体等や高校生、大学生のほか地域の人々を含めた文化活動の成果を発表・展示する機会として行います。また、地域に対して施設の開放を行います。	10月5日(土)～6日(日) 会場：青少年交流センター他
	青少年社会参加促進特別対策事業	人付き合いが苦手だが、様々な能力や可能性を秘めた青少年に自然体験や生活体験等を通し、社会参加を目指したきっかけを提供します。また、青少年の居場所を提供し、ボランティア団体等と協力して相談活動等多様な活動を行い、青少年の健全育成を図ります。	なまはげきゃんぷ 時期：7月～1月 2回程度 ゆうスペースAKITA 通年 会場：青少年交流センター他
	対人関係能力向上セミナー 「ユースパル夜学塾」	よりよい人間関係を創っていくための方法などを体験学習を通して学び、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、職場等の枠を超えた交流を図ります。	9月18日(水)～21日(土) 会場：青少年交流センター
	市町村公民館連携事業	市町村公民館や地域社会との連携を図り、もって青少年や団体活動の発掘、育成をめざし年間を通して社会教育活動を展開します。	年間 会場：県内3地区公民館
	地域青年リーダー養成	出前講座的に各地に出向き、県連合青年会が主体となり、各地域に住む青年と語り合い、青年団体の再構築を図るためのリーダー育成を支援します。	1月18日(土)～19日(日) 会場：青少年交流センター